

(様式第1号)

令和4年度第1回 芦屋市文化財保護審議会 会議録

日 時	令和4年11月10日(木) 10:00~12:00
場 所	生涯学習課三条文化財整理事務所
出 席 者	会 長 森 隆男 委 員 中江 研 森下 章司 【欠 席】 副 会 長 戸田 清子 委 員 原口 志津子 【事務局】 生涯学習課長 岩本 和加子 生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋 生涯学習課文化財係学芸員 森山 由香里
事 務 局	生涯学習課
会議の公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍 聴 者 数	0 人

1 会議次第

- (1) 生涯学習課あいさつ
- (2) 審議事項：芦屋市指定文化財の候補について
①山芦屋古墳出土遺物 ②打出焼
- (3) その他

2 提出資料

- ・資料1 芦屋市指定文化財候補の概要【山芦屋古墳出土遺物】
- ・資料2 芦屋市指定文化財候補の概要【打出焼】
- ・資料3 芦屋市文化財保護条例
- ・資料4 芦屋市文化財保護条例施行規則
- ・資料5 阿保天神社力石解説板の設置について
- ・資料6 徳川大坂城東六甲採石場400年記念事業 事業内容報告

3 審議経過

【審議事項】 芦屋市指定文化財の候補について

<森会長>

それでは、審議事項の芦屋市指定文化財の候補について、事務局より内容説明をお願いいたします。

<事務局：竹村>

資料1に基づいて説明。

<森会長>

馬具は1セットなのですか。

<森下委員>

2セットあるのかもしれませんが。どういう組み合わせなのか検討する必要があります。須恵器も2時期のものがあるということで、須恵器と馬具のセットが対応するのかもしれませんが。

<森下委員>

平底短頸直口壺は芦屋周辺の地域で焼かれたと考えるのも良いのでしょうか。形態は百済系のものですが、朝鮮半島で焼かれたものとは限りません。

<事務局：竹村>

現状はまだ検討できておりません。

<中江委員>

建造物の場合、何らかの実証性がない限り、基本的に現物の復元はしないのですが、これらの土器の復元についてはどの程度実証されているのでしょうか。

<事務局：竹村>

一般的に考古資料は推定で石膏復元をしますが、指定に向けて、出土状況などを踏まえてもう一度検討すべきと認識しました。

続きまして、打出焼についてご説明させていただきます。

<事務局：森山>

資料2に基づいて説明。

<森会長>

日常雑器が多いのであれば、民俗資料として取扱う可能性もあるかと考えておりましたが、これを見る限り違うようですね。

<事務局：竹村>

発掘調査で出土するものもあるので、日常雑器も含め、さまざまな種類のものを作っていたのだと思います。

<森会長>

琴浦窯との関りを示すような資料はありますか。

<事務局：森山>

今のところわかっていません。琴浦窯を含め、周辺地域の窯との関係も調査する必要があると考えています

<森会長>

美術担当の原口先生のご意見をお聞きしないといけませんが、いわゆる美術史の枠での整理も難しいかもしれませんね。

<中江委員>

ジャンル分けするとすると、産業工芸史という感じでしょうか。

<森会長>

そのようにジャンル分けできればきれいですね。藤川祐作氏から寄贈を受けたコレクション以外のものはあと何点ぐらいあるのでしょうか。

<事務局：森山>

芦屋市立美術博物館に所蔵されているものが数点あります。

<森会長>

今後も市民等から寄贈があるかもしれませんね。資料がさらに集まってくる中で、価値も変わってくる可能性があります。

<中江委員>

打出焼陶器工場は、当時の芦屋の中では大きい工場だったのですか。

<事務局：竹村>

芦屋の産業を紹介する当時の文献にはほとんど記載されています。

<中江委員>

近代史の中でも、芦屋の産業史的な資料として位置づけることもできるかもしれませんね。

<事務局：竹村>

阪神間モダニズムとも関連してくると思います。近代史となると、戸田副会長のご担当になる可能性もあります。

<森会長>

そうですね。美術資料とも言えないし民俗資料とも言えないし、その可能性もあるかもしれません。ただ、すぐに文化財指定を目指す前に、市民にしっかりと紹介していき、資料収集や調査研究を継続して行っていくプロセスを経てもいいのではないかと思います。

<森会長>

では、改めまして、山芦屋古墳につきまして何かご意見はありますでしょうか。

<森下委員>

断片的な資料ではありますが、この地域でトップクラスの人のお墓の副葬品であることが一番の価値かと思います。その中に、モモの種子など、他には無いような資料がたくさん含まれていますので、それらを全部合わせてもう少し検討を続けていくとさまざまなことが明らかになってくるのではないかと思います。

<事務局：竹村>

ご指摘のとおり、調査研究が不十分なところがまだ多々ありますので、もう少し検討してから諮問させていただきたいと思います。また、指定を目指すにあたっては、一括資料ということでもよろしいでしょうか。

<森下委員>

これらの出土品は、古墳にまとめて副葬された品物となりますので、一括資料として価値があるというのは間違いありません。

<事務局：竹村>

ありがとうございます。森下委員の指導を仰ぎながら、一括指定を目指して再検討していきたいと思います。

<森会長>

わかりました、よろしくをお願いします。打出焼につきましても、やはりまだ課題がいくつかありますので、周辺の事例も情報収集をお願いできませんでしょうか。少し時間をかけた方が、文化財的な価値も明らかになってくると思います。

<中江委員>

芦屋だけではなかなか位置付けが難しいのではないかなと思いますので、兵庫県あるいはその阪神間のその文化史の中での位置付けや、単に焼き物としてだけでなく阪神間モダニズムなど全体の文化の中で位置付けることができれば、歴史資料としての価値もさらに上がってくるかもしれませんので、背景も含めて調査研究していただければと思います。

<森会長>

ありがとうございます。戸田委員・原口委員の意見も是非聞いて頂いて進めていただければと思います。

【その他】報告事項

<森会長>

続きまして、その他の事項につきまして、事務局より内容説明をお願いいたします。

<事務局：森山>

資料5に基づいて説明

<森会長>

動かす人はいないとは思いますが、柵をつけるなど、何か盗難対策講じたほうが良いような気がします。

<事務局：竹村>

続きまして、徳川大坂城東六甲採石場400年記念事業についてご報告させていただきます。

<事務局：森山>

資料6に基づいて説明

<森下委員>

記念講演会については私も拝聴しましたが、非常にわかりやすかったと思います。

<中江委員>

屋外の各所に設置している徳川大坂城東六甲採石場の解説板などに、二次元コードを貼るなどの取り組みをするとより理解が深まるのではないかと思います。可能であればそういった事をご検討ください。

<森会長>

他に何かございませんか。それではこれで本日の会議を終わります。ありがとうございました。